

漁況・海況予報事業 — 抄録 —

桶坪 敏明・小田切謙二・青山 宝蔵・木村 大
鈴木 史紀・黄金崎栄一・伊藤 欣吾

発表誌名

平成4年度漁海況予報事業結果報告書

抄 録

I. 漁 況

スルメイカ・マサバ・ブリの好漁、マイワシの減少が特徴であった。

沿岸域におけるスルメイカ漁は各地とも前年を上回り好漁となっている。

主として日本海の定置網で漁獲されるブリは増加傾向にあり、漁獲量は前年をやや上回る水準となっている。

太平洋の旋網で漁獲されるマサバは昨年を大幅に上回る水揚げであった。一方、資源減少が危惧されているマイワシは依然減少傾向が続いている。

II. 海 況

1992年の青森県沿岸の海況について、日本海沿岸定線観測・太平洋沖合定線観測結果から求めた対馬暖流（日本海）・津軽暖流（太平洋）の流勢指標の平年との比較を以下に示す。

1. 日本海（観測月3～7月・9～11月、各月1回）

・最高水温（0・50・100m層）：定線内での各層の最高水温

” 平年並み” から” やや高め” に推移していたが、5・10・11月の0m並びに11月の100mでは” かなり” から” はなはだ” 高めに推移した。

・暖流幅（舳作沖・十三沖）：100m層水温5℃の離岸距離

5・9・10・11月は” 平年並み” から” やや接岸” 傾向で、3・4・7月は” はなはだ” から” かなり離岸” 傾向に推移した。6月の舳作沖では定線内に出現しなかったが、十三沖では” かなり接岸” 傾向であった。

・水塊深度：舳作線での水温7℃の最深度

3月は” やや深め”、9月は” やや浅め” であった他は平年並みに推移した。

・北上流量：舳作線における地衡流

3・7月は” やや多め”、4・9月は” やや少なめ” であった他は平年並みに推移した。

以上の結果から、対馬暖流の勢力は平年と比べ3・7月は” やや強め”、4・9月は” やや弱め” であった他はほぼ平年並みの勢力に推移していたものと考えられる。

2. 太平洋（観測月3・6・9・11月各1回）

・最高水温（0・50・100m層）：定線内での各層の最高水温

3～9月は” 平年並み” から” やや高め” であったが、11月には” かなり低め” に推移した。

・水塊深度：尻屋線での水温7℃の最深度

6月は”やや浅め”、9月は”かなり浅め”、11月は”はなはだ浅め”に推移した。

・南下流量：尻屋線における地衡流

3月は”平年並み”、6・9・11月は”かなり少なめ”に推移した。

以上の結果から、津軽暖流の南下勢力は3月の”平年並み”から6月以降は弱勢に推移していたものと考えられる。